

◆建設候補地の評価視点について（案）

評価項目	着目する内容	具体的な評価項目
①防災上の安全性	<ul style="list-style-type: none"> 津波や洪水、土砂災害等に対する安全性について評価を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◎候補地のハザードマップ等における状況はどうか（津波、洪水・土砂災害、高潮） ◎断層の有無
②交通アクセスの利便性	<ul style="list-style-type: none"> 最寄りの公共交通機関、自家用車でのアクセスについて評価を行う 広域幹線道路へのアクセス経路に対する評価を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◎鉄道のアクセス状況 ◎国道、県道、町道からのアクセス状況はどうか（例）通行上の支障（例 踏切）となる地点の有無 ◎接道状況はどうか（例）高幅員の道路が整備されているか（例）歩道はあるか、勾配はどうか
③候補地の有効性	<ul style="list-style-type: none"> 一団の土地の確保、面積規模に着目し、評価を行う 造成等が容易にできるかどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ◎候補地内支障物件の有無（例）高圧架構線の影響 ◎必要面積規模（例）大きいか 適当か 小さいか ◎候補地の敷地形状（例）整形か、非整形か、分割されているか
④周辺環境への適応性	<ul style="list-style-type: none"> 周辺環境への影響や適応性等について評価を行う 自然環境の保全に着目し評価を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自然景観、環境への影響について（例）工場敷地、農地、樹林地、未利用地 ◎生物生息環境への影響について（例）鳥獣等の保護区域になっていないか
⑤事業の経済性	<ul style="list-style-type: none"> 工事費の増大、用地取得等の増減につながる特殊要因の有無により評価を行う 新たな財政負担を強いることにならないか 造成等が容易にできるかどうか 国からの交付金等、財源確保につながるか 	<ul style="list-style-type: none"> ◎土地造成や庁舎建設の規模、費用について ◎特殊構造物等の必要性について（例）田面は盛土が多くなる。工場敷地における土壌汚染の可能性による調査費の増大、丘陵地の造成土量増大、農業用排水の付替え等 ◎土地取得費用等の増減 ◎補助金、交付金、起債の活用について
⑥事業遂行の円滑性	<ul style="list-style-type: none"> 法的手続き期間、地権者及び近隣者の合意形成の円滑性について評価を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◎土地利用規制物件の数（例）農振農用地、地域森林計画対象民有林、埋蔵文化財包蔵地の指定、公図混乱区域等 ◎既設建物数（地権者数） ◎代替地の必要性
⑦将来性、発展性、連携性	<ul style="list-style-type: none"> 町の上位計画を踏まえ将来的に町の発展に寄与できるかどうか、周辺との連携等について評価を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ◎総合計画、都市計画マスタープラン等との方針における整合性はあるか ◎景観上の魅力 ◎公的施設間の連携の有無（例）保健福祉センター（さわやか村）、教育文化施設、町民スポーツ施設、小中学校等